

考古学研究に役立てて

岡谷出身の考古学者 戸沢充則さんの志受け

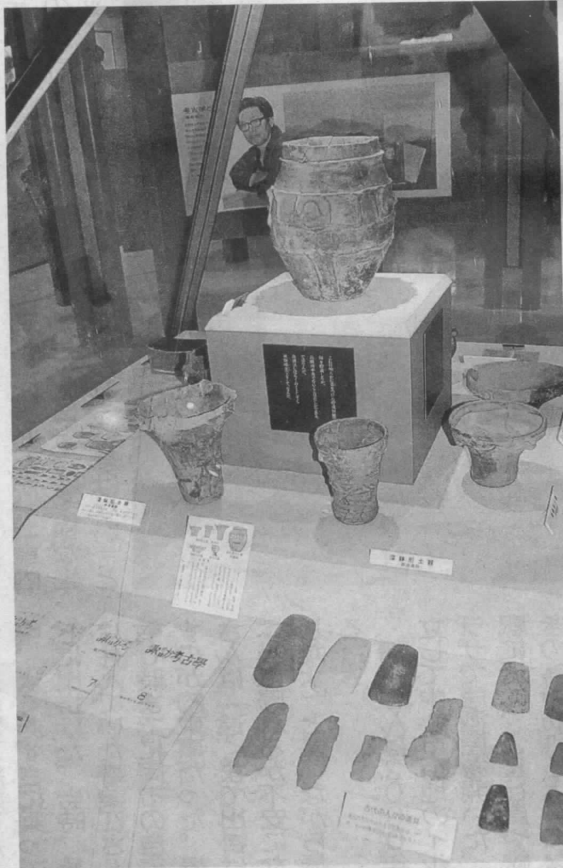
遺族が諏訪市に500万円寄付

岡谷市出身の考古学者で、2012年に79歳で亡くなった明治大名誉教授の戸沢充則さんの遺族が22日までに、諏訪市に500万円を寄付した。市によると、諏訪地方の考古資料の保存活用に役立ててほしいと戸沢さんが積み立てていた。市は寄付を基に基金を創設し、市博物館が収蔵する戸沢さんの研究資料や、同市出身の考古学者藤森一（1911〜73年）が集めた資料などの保存活用に充てる方針。



戸沢充則さん

市は基金創設「資料の保存活用に」



諏訪市博物館が収蔵する考古資料。市は寄付金で基金を創設し、保存活用を図る

戸沢さんは、諏訪清陵高校（諏訪市）在学中に藤森が主宰した「諏訪考古学研究所」に参加。明治大で考古学の研究と学生の指導に当たり、同大教授、学長を歴任した。県内の遺跡調査や保護にも大きく貢献し、茅野市尖石縄文考古館名誉館長を務めた。

た。諏訪市博物館は、藤森が集めた5万9千点余の国登録有形文化財「諏訪地域考古資料」や、戸沢さんが寄付した論文、文献資料などを多数収蔵している。遺族は、戸沢さん自身が諏訪考古学研究所で藤森と一緒に学ぶなどして諏訪市への思い入れが強かった」とし、寄付を申し出たという。市教委生涯学習課は「戸沢さんの故郷を思う気持ちや、考古学研究への志を感じる。その思いに沿う形で大切にしたい」としている。

諏訪地方の考古学発展願った元明大学長

戸沢さんの思い 基金に

諏訪市は、考古学者で元明治大学学長の故戸沢充則さん(岡谷市出身)の遺族から5000万円の寄付を受け、寄付金を考古学資料の保存や活用に生かすため、新たな基金を設置する方針を固めた。戸沢さんと諏訪市出身の考古学者、故藤森栄一さんから市に寄贈された考古学資料などの保存や活用に役立てる。28日招集の市議会12月定例会に関連条例案を提出する。

(小尾口有)

遺族の寄付基に 諏訪市が設置へ



戸沢充則さん

市教育委員会生涯学習課によると、戸沢さんはかねて諏訪地方の考古学発展にと個人的に積み立てをしてきた。5月に妻が亡くなると、遺族から9月に寄付の申し出があり、11月に受け取った。戸沢さんが師事した藤森さんが主宰し、諏訪市内にあった「諏訪考古学

研究所」での高校時代からの活動への思い入れが強かったことなどから、同市に寄付されたという。

基金名は「諏訪市地域資料等保存活用基金」とする予定。市に寄贈されている矢尻や石器、土器など6万点近くに及ぶ国登録有形文化財「諏訪地域考古学資料(藤森一蒐集品)」や戸沢さんから寄贈された文献や論文といった研究資料を中心に保存、活用する。

「い」としている。戸沢さんは諏訪清陵高卒、明治大学院博士課程修了。同大教授などを経て、1996年から4年間、学長を務めた。旧石器時代、縄文時代研究の第一人者として県内外の遺跡発掘調査や文化財保護に尽力。諏訪地域では八ヶ岳山麓の縄文時代の遺跡研究などに指導的な立場で関わった。茅野市尖石縄文考古館の名誉館長を務めた。2012年に79歳で死去した。



藤森栄一さんらが収集した遺物を展示する諏訪市博物館のコーナー。新設予定の基金で保存活用を図る

今後検討する。生涯学習課は「ふるさと」の諏訪地方や諏訪市の考古学研究への思いを大切に受け止めたい。研究の価値をどう市民に還元していくか知恵を絞りたい」としている。